

Z会進学教室 葛西通信 7月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室長のお届けします。

「繰り返される入試問題」

葛西教室の本棚には、先輩が残していった過去問がたくさん置いてあります。自分が受験する学校の過去問を購入し、受験勉強に使った本を寄付してくれたものです。中学3年生の皆さんも、秋になると過去問を使った学習が本格的に始まります。これから夏にかけてしっかりインプットとなる学習を進め、秋にはアウトプットにあたる過去問の学習が始められるよう、がんばっていきましょう。



長妻 美恵

過去の入試問題を解くことによって、受験生は志望校の問題傾向やレベル、ボリュームを知ることができます。この学校の入試問題で合格点をとるためには、どんな勉強をする必要があるかを分析し、今後の学習計画に組み込んでいきます。「過去の入試問題とまったく同じ問題が今後の入試に出ることはない」と言われることがありますが、この「同じ」というのは、たとえば国語の場合、過去に出題された文章とまったく同じ文章が、同じ高校で出題されることはないというレベルの「同じ」であり、過去問で解けなかった問題を放置してよい理由にはなりません。むしろ、部分的には同じ力を問う問題が繰り返し出題されることも珍しくない例を、これから一緒に見ていきましょう。

「開成高校が出題する古典文法の知識」

2024年度、開成高校の問題です。この年の古文は「桂林莊雜詠 諸生に示す」という題の漢詩とその書き下し文が出題されました。「桂林莊」とはこの漢詩の作者、廣瀬淡窓が江戸時代に開いた私塾です。塾生たちはそこで共同生活を営みながら学びました。「雜詠」とは「心に浮かんだことを、題を決めずに詠んだ詩」のことで、「諸生」とは「多くの塾生たち」のことですから、この漢詩の題は「桂林莊で心に浮かんだことを、多くの塾生たちに示す」という意味になります。こうした説明が問題にはちゃんとありますので、それを踏まえたうえで以下の書き下し文（漢文を日本語の語順に従って読み、仮名を交えて古文にしたもの）を読めばいいのです。

道ふを休めよ 他郷苦辛多しと
同袍友有り 自ら相親しむ
柴扉 暁に①出づれば 霜雪のごとし
君は川流を汲め 我は薪を拾はん

（注）他郷＝故郷を離れた異郷の地。

同袍＝一つの綿入れ（はんでん・どてら。いずれも厚く綿を入れた防寒具）を共用すること。

また、そこから親友を意味する。

柴扉＝細い木の枝を束ねて作った粗末な門。

故郷を離れ、異郷の地で共同作業をしながら、桂林莊で学ぶ者たちの心構えが詠まれています。苦勞を口にせず、塾生同士、仲良く助け合っていこうという内容でした。そこで開成の問題です。

〔設問〕傍線部①「出づれば」を現代語訳に改めよ。

たった一言、「出づれば」を訳せばいい問題です。「ば」という語の意味をきちんと理解しているかどうかを見ようとしています。「出づれば」は、「出たので」または「出ると」と訳すことができます。どちらで訳すべきかは前後の文脈で判断します。どちらがいいか考えてみてください。

〔訳〕言うのはやめよ、異郷の地で（の勉強は）つらいことが多いと。

一つの綿入れを共用する友がいて、自然と互いに親しくなるのだから。

粗末な門を夜明け方に①（出たので・出ると）、霜が雪のように白く降りている。

君は川に行って水を汲め、私は山で薪を拾おう。

答えは出ましたか。このあと正解をお伝えし、その解説をします。まだ答えが出ていない人は一度考えてみてから読み進めるようにしてください。正解は「出ると」です。自分が外に出るか出ないかに関係なく外では霜が降りているのですから、自分が外に出ることと霜が降りていることを、原因と結果の関係でつなぐ「出たので」という訳ではおかしいということになります。

さて、今回のテーマは「繰り返される入試問題」ですから、別の年度で開成高校が出題した問題を見えます。今の問題の3年前、2021年度の古文です。「一寸法師」のお話で、一寸法師とお姫さまの目の前に鬼が現れるシーンでした。子どものころ絵本で読んだことのある人もいるでしょう。絵本では、一寸法師とお姫さまはお寺にお参りする途中で鬼と遭遇しますが、古文では、鬼のいる島に二人がやって来たことになっています。難しい話ではありません。出題された古文と設問を読んでみましょう。

舟より上がり、一寸法師は、ここかしこと **3 見めぐれば**、いづくともなく、鬼二人^{きた}来りて、一人は打出^{うちで}の小槌^{こづち}を持ち、いま一人が申すやうは、「呑^のみて、あの女房^{さうら}取り候はん」と申す。口より **4 呑み候へば**、目の内より出でにけり。鬼申すやうは、「これはくせものかな。口をふさげば、目より出づる」。一寸法師は、鬼に呑まれては、目より出でて飛び^{あり}歩きければ、鬼も怖^おぢをののきて、「これはただ者ならず。ただ地獄^{らん}に乱（＝反乱）こそ出で来たれ。ただ逃げよ」と言ふままに、打出の小槌、杖、しもつ（＝細い木の枝で作った^{むち}鞭）、何に至るまでうち捨てて、極楽浄土の乾^{いぬみ}（＝西北の方向）の、いかにも暗き所へ、やうやう逃げにけり。さて、一寸法師は、これを見て、まづ打出の小槌を^{らんぼう}濫妨（＝略奪）し、「われが背を、大きになれ」とぞ、どうぞ **5 打ち候へば**、ほどなく背大きになり、さて、このほど疲れに **6 のぞみたることなれば**、まづまづ飯を打ち^{いだ}出し、いかにもうまさうなる飯、いづくともなく出でにけり。不思議なるしあはせとなりけり。

* 文章中の「候^{さうら}ふ」は丁寧語で、現代語の「です・ます」にあたる。

【設問】文章中の傍線3～6の部分は、すべて「……ば」の形になっているが、この中で現代語に訳そうとすると、一つだけ訳し方の異なるものがある。その番号を答えよ。

ここでも2024年度とまったく同じ、「**ば**」という語の意味をきちんと理解しているかどうかを見ようとしています。それぞれの「～ば」について、「～たので」と訳したほうがいいのか、「～と（ところ）」と訳したほうがいいのかを判断するわけです。今回は複数ですが、考えてみてください。

- | | |
|--------------|---------------------|
| 3 見めぐれば | (見回したので・見回すと) |
| 4 呑み候へば | (呑みましたので・呑みますと) |
| 5 打ち候へば | (打ちましたので・打ちますと) |
| 6 のぞみたることなれば | (のぞんでいたで・のぞんでいたところ) |

正解 = 6	3 見めぐれば	(見回すと)
	4 呑み候へば	(呑みますと)
	5 打ち候へば	(打ちますと)
	6 のぞみたることなれば	(のぞんでいたので)

受験生は過去問を数年分さかのぼって解くのが一般的ですから、2024年度の受験生が2021年度の過去問を解いた可能性は高く、過去問学習を通じて理解できていれば本番で確実に正解したことになります。これは偶然でしょうか。恐らくそうではないでしょうね。入試問題は受験生へ向けた高校の先生からのメッセージです。この問題が解けるということは「ば」をはじめとする古典文法の、品詞で言うと助詞・助動詞の学習がある程度まで進んでいることを意味します（「ば」だけがわかればいいというものではありませんし、そんな勉強の仕方はありません）。「高校入学後は古典文法の基礎については、学習経験があるものと見なして授業を進めていきます。そうした力のある生徒をわが校は求めています」というメッセージをここから読み取るべきでしょう。入試問題から見えてくることは多いです。

「学芸大附属高校が出題する現代文法の知識」

次は、もっと顕著な例を紹介します。東京学芸大学附属高校が出題する現代文法の問題です。2017年度と2007年度の出題を続けて見てください。中3生なら正解を出せるはずです。

2017年度〔設問〕二重傍線部㉖～㉚の「の」のうち、その用法が同じ組み合わせとして適切なものを、後の①～⑤のうちから一つ選んでマークしなさい。

- ㉖ 絵を描くのが好きだった。
- ㉗ 妙に場違いなもののように思えてきた。
- ㉘ あまりにも軽いのに驚いた。
- ㉙ 屈託のない笑顔で伝票を渡してくれた。
- ㉚ ほんのしばらく水に浮いた。
- ㉛ 水に濡れているはずなのに、

- ① ㉖㉘ ② ㉗㉙ ③ ㉖㉙㉚ ④ ㉘㉙㉚ ⑤ ㉗㉘㉚

2007年度〔設問〕二重傍線部ア～カの「の」のうち、①連体修飾語を作る助詞、②体言の代用をする助詞、にそれぞれ当てはまるものを一つずつ選び、記号で答えなさい。

- ア 売り場の主任が話しかけた。
- イ 熱帯魚の売り場なのに、
- ウ 動物の好きな人、
- エ この猿を買うことを、
- オ 「今もそんなの。」
- カ 売っているのを見物したり、

正解 2017年度 = ①

2007年度 = ① ア

② カ

用法 格助詞「の」意味は連体修飾

2017㉔ 2007ア

格助詞「の」意味は準体言

2017㉕ 2017㉖ 2007カ

格助詞「の」意味は主格

2017㉗ 2007ウ

接続助詞「のに」の一部

2017㉘ 2007イ

連体詞の一部

2017㉙ 2007エ

終助詞「の」

2007オ

二重傍線部「の」の文法的意味を識別させる問題でした。用法を確認すると、正解を出すうえで必要となる知識が重なっていることがわかります。しかも学大の場合はこの2年分だけに限りません。何度も繰り返し同じ語に傍線を引く文法問題を出題しています。それを表にしてみます。

【過去30年の学大の文法問題】

2023年 「に」	2013年 「に」	2003年 「に」
2022年 「ない」	2012年 「られる」	2002年 「し」
2021年 「の」	2011年 「と」	2001年 「の」
2020年 「呼応の副詞」	2010年 「で」	2000年 「くだけた表現」
2019年 「ようだ」	2009年 「動詞」	1999年 「で」
2018年 「ばかり」	2008年 「ばかり」	1998年 「と」
2017年 「の」	2007年 「の」	1997年 「ない」
2016年 「ようだ」	2006年 「ない」	1996年 「だ」
2015年 「形容動詞」	2005年 「で」	1995年 「が」
2014年 「で」	2004年 「さえ」	1994年 「副詞・形容詞」

色を付けたところが複数回、同じ文法問題を出題しているところです。実にカラフルな表になりました。「の」の問題は、2017年、2007年だけでなく、2021年、2001年にも出題されています。「で」の問題もここ30年間で4回、「に」「ない」が3回など、大事なことは何回でも出題しますから、しっかり勉強しておいてくださいねという高校の先生の声が聞こえてくるようです。色の付いたところに共通することがあります。それはいずれにも助詞や助動詞の知識をからめている点です。現代文法で助詞や助動詞がしっかり理解できていると、高校になってからの古典文法の理解に役立つという大きなメリットがあります。古文を読解するにあたって最も重要になってくるのがこの助詞、助動詞の理解です。「**私たちに**と**身**近な現代の言葉」とともに文法の専門用語を覚えている生徒は、そこで作りあげた理解の「器」に「**私**た**ち**と**っ**て**あ**ま**り**馴**染**み**の**な**い**昔**の**言葉」を入れていくだけで、読解に必要な文法事項をスピーディーに習得できます。高校に入学し、古文の学習が始まるまでにその「器」を作っておきましょうというのが、この入試問題のメッセージだと私は考えます。

「日比谷高校が出題する作文のテーマ」

最後に、都立日比谷高校の作文問題を2年分、見てみます。日比谷に限らずほとんどの都立高校では、論説文読解の最後に作文の問題が課されます。自分の思ったこと、感じたことを自由に書けばいいというような作文ではなく、論説文の内容を正確に把握し、与えられたテーマに基づいて、具体例などを織り交ぜながら説得力のある作文を書くことが要求されます。ここでは2022年度と、その4年前にあたる2018年度の作文問題を見てみます。

2022年度【設問】一つの「伝統」のなかで当然のこととして受け入れられていることが、他の伝統との比較のなかで、初めて「当然」なことではなく、「一つの選択」である、ということが理解される。とあるが、このような体験がもつ意味や価値について、次の【条件】1～5に従って二百五十字以内で書け。

【条件】

- 1 読点（、）や句点（。）やカギカッコ（「」）などのほか、書き出しや改行の際の空欄もそれぞれ字数に数えること。
- 2 二段落構成にして、第一段落の終わりで改行すること。
- 3 第一段落では、あなた自身が経験したことや見聞など、具体的な事例を挙げること。
- 4 第二段落では、3で挙げた具体例について、あなたが考えたことを記述すること。
- 5 二つの段落が論理的につながり、全体として一つの文章として完結するように書くこと。

2018年度【設問】本文で筆者は、〈歴史〉が集団の人びとのものの見方の枠組みとなることを指摘しているが、私たちの世界には〈歴史〉だけでなく、「言語」や「文化」、「習慣」など、他にも感性や認識、価値観の枠組みとなるものがある。このことについて次の【条件】のもとに二百五十字以内で書け。

なお、読点（、）や句点（。）やカギカッコ（「」）などのほか、書き出しや改行の際の空欄もそれぞれ字数に数えること。

[条件]

- 1 「言語」「文化」「慣習」に関することで、集団の人びとのものの見方や感性、認識、価値観に強い影響を受けているにもかかわらず、影響を受けていること自体を十分に認識していないことについて、具体的な事例を挙げて指摘すること。
- 2 1で挙げた具体例について、あなたが考えたことを記述すること。

この二つの作文問題の共通点に気づけましたか。2022年度は、一つの「伝統」のなかで**当然のこととして受け入れられていることが、他の伝統との比較**のなかで、初めて「当然」なことではなく、「一つの選択」である、ということが理解される。とあり、このような体験がもつ意味や価値について考えることを要求していました。2018年度は、「言語」「文化」「慣習」に関することで、集団の人びとのものの見方や感性、認識、価値観に**強い影響を受けているにもかかわらず、影響を受けていること自体を十分に認識していないこと**について考えることを要求していました。

一つの「伝統」のなかに、その伝統がつくりあげた「言語」「文化」「慣習」が存在します。そしてその言語・文化・慣習のなかには、**当然のこととして受け入れられていること**、言い方を換えれば、**強い影響をうけているにもかかわらず、影響をうけていること自体を十分に認識していないこと**があります。私たちが当然であると思って受け入れている伝統（言語・文化・慣習）が、当然でないことに気づくためには**他の伝統との比較**が有効な方法になるでしょう。自文化を絶対視せず、相対化する視点を持つことの重要性を、この二つの作文は共通して要求していたというわけです。受験生には「多様性」について主体的に考える機会を持ってほしいという日比谷の先生からのメッセージだと考えます。

どちらの年度もこのテーマにあてはまる具体例を挙げるように指示していました。どのような具体例があるでしょうか。自分でも一度考えてみると、よい頭の体操になります。たとえば、家の中に入るとき靴を脱ぐのが一般的である文化がある一方で、家の中でも靴を脱がない文化があります。食事をするとき箸やフォークなどの道具を使う文化がある一方で、自分の手で直接食べ物に触れる文化があります。自分にとっては「あたりまえ」のことが、他の文化との比較によって、あたりまえでないことに気づける例は他にもいろいろありそうですね。

2018年度の作文問題の解答例として日比谷高校の先生が紹介してくださった具体例を、2022年度の入試で上手に利用していた受験生もいました。さすがにここまで共通するテーマが出題されるということは、そうそうないとは思いますが、過去問を通じて学ぶことが、その高校の大切にしていることを学ぶことにつながります。受験生の皆さんは、過去問を解いたら必ず先生に見てもらってください。記述問題の答えは自分でマル付けせず、先生に添削してもらいましょう。私たちと一緒にがんばっていきましょうね。

月	日	曜	受付	本科生スケジュール					本科生以外の方対象のイベントなど	
6	26	水	14 ~ 22							
	27	木		休室						
	28	金	14 ~ 22							
	29	土	14 ~ 22						14:00~16:50 中1中2学力診断テスト	
	30	日	10 ~ 20	7月度②					9:30~13:00 中3公立トップ高受験適性診断	14:00~15:00 夏期講習説明会
7	1	月	14 ~ 22							
	2	火	14 ~ 22							
	3	水	14 ~ 22							
	4	木		休室						
	5	金	14 ~ 22							
	6	土	14 ~ 22						15:00~17:00 公立高校第一志望者のための私立高校入試研究会	
	7	日	10 ~ 20	7月度③					10:30~14:00 夏期講習準備テスト	14:00~15:00 夏期講習説明会
	8	月	14 ~ 22							
	9	火	14 ~ 22							
	10	水	14 ~ 22							
	11	木		休室						
	12	金	14 ~ 22							
	13	土	14 ~ 22						13:00~16:30 夏期講習準備テスト	
	14	日	10 ~ 20	3V 実力テスト	3K 実力テスト	2V 実力テスト	2K 実力テスト	1V 実力テスト		
	15	月	14 ~ 22	休講					13:00~15:00 千葉県立高校入試研究会	
	16	火	14 ~ 22	休講						
	17	水		休室						
	18	木		休室						
	19	金	14 ~ 22	休講						
	20	土	12 ~ 20	休講						
	21	日	10 ~ 20	中3 単科ゼミ①		中2 単科ゼミ①				
	22	月	10 ~ 20	中3 単科ゼミ①		中2 単科ゼミ①				
	23	火	10 ~ 20	中3 単科ゼミ①		中2 単科ゼミ①				
	24	水	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国①	中3 単科ゼミ②	中2 単科ゼミ②				
	25	木	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国②	中3 単科ゼミ②	中2 単科ゼミ②				
	26	金	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国③	中3 単科ゼミ②	中2 単科ゼミ②				
	27	土		休室						
	28	日	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国④ 理社①	3K 夏期講習 英数国理社①	2V 夏期講習 英数国理社①	2K 夏期講習 英数国理社①	1V 夏期講習 英数国①		
	29	月	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国⑤ 理社②	3K 夏期講習 英数国理社②	2V 夏期講習 英数国理社②	2K 夏期講習 英数国理社②	1V 夏期講習 英数国②		
	30	火	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国⑥ 理社③	3K 夏期講習 英数国理社③	2V 夏期講習 英数国理社③	2K 夏期講習 英数国理社③	1V 夏期講習 英数国③		
	31	水	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国⑦ 理社④	3K 夏期講習 英数国理社④	2V 夏期講習 英数国理社④	2K 夏期講習 英数国理社④	1V 夏期講習 英数国④		
8	1	木	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国⑧ 理社⑤	3K 夏期講習 英数国理社⑤	2V 夏期講習 英数国理社⑤	2K 夏期講習 英数国理社⑤	1V 夏期講習 英数国⑤		
	2	金		休室						
	3	土	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国⑨ 理社⑥	3K 夏期講習 英数国理社⑥	2V 夏期講習 英数国理社⑥	2K 夏期講習 英数国理社⑥	1V 夏期講習 英数国⑥ 理社①		
	4	日	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国⑩ 理社⑦	3K 夏期講習 英数国理社⑦	2V 夏期講習 英数国理社⑦	2K 夏期講習 英数国理社⑦	1V 夏期講習 英数国⑦ 理社②		
	5	月	10 ~ 20	3V 夏期講習 英数国⑪ 理社⑧	3K 夏期講習 英数国理社⑧	2V 夏期講習 英数国理社⑧	2K 夏期講習 英数国理社⑧	1V 夏期講習 英数国⑧ 理社③		

Z会の教室
Z会進学教室 葛西教室

〒134-0084 江戸川区東葛西 6-2-3 第三須三ビル 6 階 TEL03-5878-0844

受付時間 平日 14:00~22:00 日曜日・講習中 10:00~20:00

『葛西通信』の記事（バックナンバー）は Web からご覧いただけます。

Z会 葛西

検索